

第 8 回 大館市バリアフリーまちづくり推進協議会 議事録

1. 日時：令和 4 年 3 月 28 日（月）午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
2. 場所：桜櫓館 1 階
3. 内容：大館市バリアフリー基本構想（最終案）について
4. 議事内容

(1) パブリックコメント結果について

事務局より資料「1.パブリックコメント結果について」を説明

(2) 大館市バリアフリー基本構想（最終案）について

事務局より資料「2. 大館市バリアフリー基本構想（最終案）について」を説明

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より資料「3.今後のスケジュールについて」を説明

(4)その他について

事務局より「バリアフリーマップの作成」を説明

（以下、質疑応答）

- | | |
|------|---|
| S 委員 | パブリックコメントでの「心のバリアフリー」についての意見が心に刺さった。概要版 4 章「特定事業」について、これらの事業のうち心のバリアフリーに関する事業は何か。 |
| 事務局 | 教育啓発バリアフリーに関するすべての事業が心のバリアフリーになる。 |
| K 委員 | 心のバリアフリーについて述べているという事が分かるように、表現を修正すると良い。 |
| K 委員 | 新規の提案である「mobi 事業」について詳しく説明頂きたい。 |
| 事務局 | 完全なドア・トゥ・ドアではなく停留所まで 200m 程度歩く必要がある。完全な定刻運行ではない。AI がルートを作成する。
京丹後市の事例では、子供の迎えに便利、雨の日の移動に便利などの意見が挙げられていた。4 月から交通事業者との協議を進めていく。 |
| K 委員 | アプリ等のシステムが使える人だけが利用できるのか |
| 事務局 | メインはアプリでの利用を考えているが、電話でも利用できるシステムとなっている。 |
| A 委員 | 概要版移動等円滑化地域外の共生社会参加モデル施設について、花岡総合スポーツ公園が含まれていないが、利用者から最も交通が不便であるという意見が挙げられている。高館公園が入っているが、近くにある花岡総合スポーツ公園が入っていない理由を教えてほしい。可能であれば共生社会参加モデル施設に加えてほしい。 |
| S 委員 | 元々は付け加える方向で考えていたが、花岡総合スポーツ公園は整備を行う予定であり、今後追って加えることを考えていた。関連するスポーツ部局とも確認したい。 |
| K 委員 | 体育協会としてはすぐに付け加えて欲しいと考えていることは分かった。追加する |

方向性で考慮すること。

K 委員

今回の基本構想についての各々の意見については、記録されていることが大切であるため、後程でも構わないため事務局へメールや FAX で共有いただきたい。

H 委員

mobi プロジェクトの具体的な計画はいつ頃動き始めるのか。

事務局

交通事業者と連携して仕組みを作っていきたい。令和 4 年度の中盤あたりまでは実証実験に向けた仕組みづくりを進めていければ良いと考えている。

T 委員

目標時期について「継続実施」と「協議検討」というものがある。今後 PDCA を行うにあたり、これらの記載された事業についてどのように実施か説明を頂きたい。

事務局

目標時期については、短期または中期、長期それぞれの期間の内に事業を実施し完了させる、という意味である。「協議検討」について現在は具体的な計画が出来ていないため今後も協議し事業を実施するという意味である。「継続実施」は現在実施している事業を継続して実施していくという意味である。

K 委員

継続実施は『現在実施しているものを継続する』という意味として理解した。列の位置が分かりづらいため、修正すること。

事務局

継続実施の列は事業者と目標時期の間に移動し、今後も継続して実施する事業であるという旨が分かるようにする。

S 委員

建物に重点生活関連施設であることを示すステッカー を貼るなど、基本構想にて策定した事項が市民に伝わるようにしたほうが良いのではないかと考えている。

S 委員

活動が市民に伝わるように、分かりやすく伝える工夫をしたいと考えている。

事務局

心のバリアフリーに関して、バリアフリーマップを 300 セット作成し、イベント等での配布や施設への設置などを検討している。

S 委員

活発な意見が出され、素晴らしい基本構想となったと思う。秋田県内では秋田市と大館市のみ作成されている。大館市基本構想が好事例として浸透し、他市町村にも広がっていくと良いと思っている。運輸局としてもバリアフリー教室の開催補助等も行っていきたいと考えている。心のバリアフリーを中心とした取り組みについて補助していききたいと考えている。

S 委員

地域公共交通計画の策定時はパブリックコメントが集まらなかった。大館市民の方がバリアフリーについて関心が高いことに驚いた。

バス停の待合所の整備についての意見が多かった。予算的に厳しいところもあるが、全国的にも要望が増加している点である。

mobi プロジェクトについては秋田県では無かった取り組みであるが、能代市ではバス路線に AI 機能を導入、仙北市が JR とデマンド交通を共同運営、など他地域でも新たな取り組みが進められている。人口減少が進む中で地域公共交通を運営していくにあたる好事例になると良い。

5. 会議風景

